平成２３年６月１９日

# 大村秀章愛知県知事様、

お忙しいところまたお便りをさせて頂く失礼をお許しください。

## 県立芸大は計画的補修で経費も軽くし、歴史的文化的価値も継承し、自然環境も保全する道を選んでください。

6 月 16 日の中日新聞朝刊に県立芸術大学学生有志主催のエクスカーションとシンポジウムの報道があり、新音楽学部棟建設の問題点を元県立芸術大学施設整備ビジョン検討会委員奥村昭雄代理の立場からお話させていただきます。

先日今回の県立芸大の新音楽学部棟建設予定地内にあるというだけで、まだまだ使える外人公舎が遂に壊されてしまいました。新音楽学部棟という巨大な箱物を、わざわざ工費が嵩む急峻な崖地で、希少生物が多々生息する場所に何故置く必要があるのか。それによってその一帯に何が起こるのか。今一度再考していただけますよう、切にお願い申し上げます。

県芸の広大なキャンパスにはいくらでも建設可能地が考えられ、特に開学当初から将来のために用意している、グリーン道路に開けた北側増設保留地があることも是非お伝えさせて頂きます。

今まさに県立芸大も法人化の中で、その存在が問われています。
将来の計画を考える上で、内部だけの考察ではなく、いかに外部にアピールするかを考えねばなりません。今の時代に必要不可欠な物をどこに計画的に建設するかが真っ先に問われています。
地域に、県全体に日常的にいかに直結するかが問われています。

県学事振興課と大学法人は、全体計画（マスタープラン）はまだありません、白紙ですとして今回の巨大施設のみを「緊急整備」という名目で建てようとしてきました。
しかしそこには大変な落とし穴が存在しています。
全体を考察した全体計画（マスタープラン）がまだ存在していないのです。
この際前知事のこの未解決の事案を、知事御自信の提案で世に問うていただきたいと思います。

大学の施設整備をリードされてきた施設整備委員会委員長は、仕事目当ての大手設計事務所と組んで作成したマスタープランを、2008 年 3 月に法人から県に提出されました。そして今その案の中にあった今回の新音楽学部棟だけを建てるという、先の保障のない形で工事着手に進んできました。
今の新音楽学部棟計画はそのときに県に出されたマスタープランの中でのみ意味を持つ新音楽学部棟建設位置であったわけであり、その委員長が今は「マスタープランはありません、白紙です、これから考えます」と言われている以上、この新音楽学部棟を今の位置に建てることを容認する根拠はどこにもないことになっています。
この狭い急峻な崖地に、わざわざ難工事のために多額の余計な工事費まで使って無理に作る理由がどこにあるのでしょうか。ただ学校側が早く欲しいというだけで、何も先が説明されていないままで県立芸大の将来を決する巨大な投資をするのは、県税の無駄使いそのものにつながります。

現に今の最終の実施設計のものは、基本設計のものよりももっと巨大な建物が、狭い崖地に南北 2 列に、並んで建つことになっています。
その建設予定地に今ある、1987 年に用意された駐車場もなくなることになります。旧女子寮入り口の反対側に 1986 年に用意された駐車場の上に、応急で美術学部博士棟を建ててしまったという、嘗ての計画性の無さとまた同じことが起ることになってきています。
一の池南西を埋め立てて作った駐車場にも、音楽学部の博士棟他を急遽プレハブで埋め尽くして建ててしまっており、全く現地にあって将来まで見通した全体計画のもとでの施設整備がなされておりません。

このように至るところで混乱を起すことをしている県学事振興課と大学法人は、今回またまだまだ使える県の資産である旧女子寮を壊し、それを知った先生や学生たちは、何とか転用して使いたいと進言されましたが、話し合いも許されませんでした。

昨年から今年の4月25日までは、県の所有する今まで使っていた学生寮と、法人が外部企業に建てさせた学生寮と、二つの学生寮が同時に存在するというおかしなことが起りました。

これもキャンパス整備の全体計画（マスタープラン）をまず徹底しない行政担当者のもとに生まれた当然の帰結です。

行政の自由裁量という前の段階の、資産の浪費そのものです。

多くの県民の皆さんは、新しい新音楽学部棟に30億もの大金（坪単価約168万円）をかけて新品を何故作る必要があるのか、疑問に思われています。今までの既存校舎を直し、足らなければ増築して、何故その都度維持をされていかれないのか不思議です。昨年施設整備ビジョン検討会でお尋ねしたところ、過去7年間のデータでも、今言われている音楽棟の欠陥箇所は何も補修の手が付けられていませんでした。
全く管理者責任が果たされていません。

1年に入った学生が4年間何も改善されずに卒業するという状況が公然とまかり通っている状態です。45年前、短期間で開校にこぎつけるために十分な予算が用意されない状態で作られた施設も、結局はその後の維持、改善がなされないままで来てしまっています。
もしこれが皆さんの家庭の問題であれば、その主は必死に直すしかないのです。日々のメンテナンスを検討し処置をする施設課も機能していない状態で、スクラップアンドビルドの道に進んでしまうことは、根本的に行政の失政につながります。
県学事振興課と大学法人は、旧音楽棟の改修増築は運用上も技術上もできないと言い続けられていますが、他大学ではそれを日々やってきているのです。

全体計画の中での今回の建設工事の正当性を議会に示さずに、何故これだけの巨大施設を建てることが許されるのでしょうか。
この巨大施設が今後のキャンパス全体の中で、どういう影響を及ぼし、最終的にどういう役割を担っているのか、今まだ全体計画がないとのことですので、それを待つしかありません。現に管打レッスン棟との関係も、今までの数倍遠くなり、何の解決にもなっていません。

県学事振興課と大学法人が結局説明できないままで始めようとしている今回の新音楽学部棟建設工事は、あまりにも問題が山積みですので、一旦凍結するしかないと思われます。
無駄を無くし、健全な県財政運営を堅持するためには、どうしても全体を計画し、それを知事が確認される必要があります。

今の新音楽学部棟建設は全体計画を決めない限りは、必ず問題を起こし、今までのように無駄を重ね、混乱に陥ります。

ここで何としてもお願いしたいのは、昨年の施設整備ビジョン検討会で申し上げてきた通り、その都度先送りされてきたキャンパス全体の建物の直しを、本年度予算を駆使して真っ先に着手されることをお願いいたします。学生たちも先生方も待っておられます。

また今の計画は、莫大な県税を使って大変な環境破壊行為をしようとしています。愛・地球博が開催された現モリコロパーク隣接の県有地（芸大）なのですが、湧水にしか自生しないカワモズクをはじめ絶滅危惧種もいる堀越川の源流域であり、希少生物の生息する貴重な聖域をわざわざ破壊する道を何故敢えて選ばねばならないのか。愛・地球博やＣＯＰ１０で掲げてきた県の方針と全くの大違いです。県学事振興課と大学法人の姿勢が問われます。

時代に逆行する今のキャンパス破壊行為は何としてでも避け、これまで皆さんが築いてきた貴重なキャンパスを引き続き育てていけるよう、支えてあげていただきたいと思います。

バブル時代のスクラップアンドビルドはもはや地球全体が許しません。

今の時代に何が必要とされるか。

是非大村知事の英断をお願い申し上げます。

よろしくお願い申し上げます。

緑豊かな愛知芸大のキャンパスを活かしていこう会
代表　　近藤高史

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

**緑豊かな愛知芸大のキャンパスを活かしていこう会**
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 5-11-6 代々木コンド 403
TEL/FAX03-3467-3942
携帯 090-9853-9646
e-mail ： kas-tk@alpha.ocn.ne.jp
ＨＰ：　　　**緑豊かな愛知芸大のキャンパスを活かしていこう会**

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・